

令和5年度仙台市障害者ケアマネジメント従事者養成研修について

【基礎研修】

名 称	令和5年度 仙台市障害者ケアマネジメント従事者養成研修(基礎研修)
運 営	精神保健福祉総合センター（障害者支援課，障害者総合支援センター，北部・南部発達相談支援センター）
研修方法	(1) 前期（オンデマンド）研修（せんだい Tube による配信） (2) 後期（集合）研修
研修期間	(1) 前期（オンデマンド）研修：令和5年9月15日（金）～10月13日（金） (2) 後期（集合）研修：令和5年11月28日（火） 13：30～17：00
対象者	・相談支援事業所等，及び仙台市内の障害福祉分野関連事業所で勤務する1～5年目職員 (1) 前期（オンデマンド）研修 ・相談支援事業所に加え，仙台市内の障害福祉分野関連事業所（共同生活援助，就労継続支援等），行政職員。 (2) 後期（集合）研修 ・前期研修を受講した方のうち，普段の業務として相談支援業務に従事している方。
参加者	(1) 前期（オンデマンド）研修 ・研修申込者：67名（相談支援事業所，児童発達支援センター，放課後等デイサービス，就労継続支援事業所，共同生活援助，宿泊型自立訓練，生活介護，訪問介護サービス，地域包括支援センター，行政職員等） ・講師：東北福祉大学大学院総合福祉学研究科長 教授 三浦 剛氏 障害者相談支援事業所くれよん 福地 真衣子氏 障害者相談支援事業所ほっとすぺーす 高梨 直樹氏 障害者相談支援事業所サポートはぎ 高橋 克弥氏 (2) 後期（集合）研修 ・研修申込者：15名（当日参加14名。相談支援事業所，障害者福祉センター等） ・講師：東北福祉大学大学院総合福祉学研究科長 教授 三浦 剛氏 当事者家族 大越 紀子氏 ・各区自立協から選出の企画委員：5名 ・事務局(障害者支援課，障害者総合支援センター，北部・南部発達相談支援センター，精神保健福祉総合センター)：8名
獲得目標	<個別支援> ①生活者の視点に立った障害者（児）のニーズを理解する ②ニーズに近づくためのプロセスや考え方・手法を理解する ③チームアプローチを理解する <地域支援> ①個別支援で把握した課題を共有する機会の大切さを理解する ②地域内にある他の事業所を理解する <人材育成> ①自分の得意不得意を知る ②自分の研修計画を立てられるようにする
内 容	(1) 前期（オンデマンド）研修 約3時間 ①オリエンテーション，研修手帳の説明：8分 ②講義「ケアマネジメント概論」：107分 ③講義「ケアマネジメント実践」 ・障害のある人たちへの支援の原則：12分 ・障害がある人への支援のプロセス：18分 ・地域における連携の要点：22分

	<p>(2) 後期 (集合) 研修 約3時間半</p> <p>①事前課題に基づくグループワーク</p> <p>②前期 (オンデマンド) 研修の振り返り</p> <p>③当事者からのメッセージ～家族の立場から～</p> <p>④当事者からのメッセージを受けて改めて自身の支援について考える (個人ワーク・グループワーク)</p> <p>⑤研修手帳の活用について</p>
研修実施における工夫点	<p>(1) 前期 (オンデマンド) 研修</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和4年度第1回・第2回仙台市障害者自立支援協議会において、オンデマンド研修は対象者拡大にかかる手法として一定の効果があり、今後も障害者支援に関わる関係機関や関係者等に障害者ケアマネジメントの基本的な理念や手法をどのように普及させていくか引き続き検討が必要と報告。令和5年度は、上記を念頭に置き、前期 (オンデマンド) 研修の案内を、仙台市内障害福祉関連法人あて送付し、受講対象者拡大を図った。 内容としては、三浦教授による講義「ケアマネジメント概論」を基本とし、その中の各論 (「障害のある人たちへの支援の原則」「障害がある人への支援のプロセス」「地域における連携の要点」) について、各区自立協から選出の企画委員が、普段の地域実践を挙げながら具体的な講義を行い、初任者及び今回拡大した対象者がより理解しやすいよう工夫した。 <p>(2) 後期 (集合) 研修</p> <ul style="list-style-type: none"> 昨年度の本研修会アンケートにて、「当事者家族の話も聴いてみたい」との意見を参考に、「当事者からのメッセージ～家族の立場から～」を設定した。 企画会議にて講師選定に関し検討。講師との打ち合わせを丁寧に行うことで、本研修の獲得目標を共有・確認。この研修を通し、＜個別支援＞＜地域支援＞への学びもさることながら、前期 (オンデマンド) 研修では直接取り扱うことが困難であった＜人材育成＞ (自己覚知) について深めることができた。
アンケート結果	<p><課題結果></p> <p>(1) 前期 (オンデマンド) 研修</p> <ul style="list-style-type: none"> 研修申込者：67名、アンケート回答者：26名 (回収率 39%)。 「よく理解できた」「理解できた」が大半を占め、参加者の理解度は高まったと考えられる。 「基本からの丁寧な説明で理解が進んだ」「当事者目線で考えることが大前提であることを改めて理解」「事例を含めた説明が多く理解しやすかった」等の意見が多かった。 <p>(2) 後期 (集合) 研修</p> <ul style="list-style-type: none"> 参加者：18名、アンケート回答者：16名 (回収率 89%) 「よく学べた」「学べた」が100%であり、参加者の学びが深まったものと考えられる。 「当事者のメッセージがあったので具体的に理解することができた」「グループワークで内容を深めることができた」「ケアマネジメントの手法だけではなく、基本原則に基づく心構えについても深く学ぶことができた」「自分の支援傾向に気づいた」との意見が多かった。
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> オンデマンド型研修については、効率的に受講できるという理由で概ね好評であった。その一方で、「質疑応答ができない・実際に体験談を聞きたい」等の意見もあり、受講対象者拡大の方向性を鑑みると、次年度は後期 (集合) 研修で対象者を限定せず、希望があれば受ける方向で考えることも一つ。その際、後期 (集合) 研修の目的・内容とグループワークの内容に応じて定員を設けることが必要。

【実践研修】

名 称	令和5年度 仙台市障害者ケアマネジメント従事者養成研修(実践研修)
運 営	北部・南部発達相談支援センター(障害者支援課, 障害者総合支援センター, 精神保健福祉総合センター)
研修方法	集合形式
研修日時	全1回: 令和6年2月6日(火) 13:30~17:00
対象者	研修希望者・獲得目標を習得する必要があると事業者が認めた方 (障害者ケアマネジメント従事者養成研修基礎研修受講の有無は問わない)
参加者	<ul style="list-style-type: none"> ・研修受講者: 29名 ・講師: 東北福祉大学総合マネジメント学部産業福祉マネジメント科 教授 高橋誠一氏 ・実践報告: ひなたぼっこ, ほっとすぺーす, 仙台市社会福祉協議会青葉区事務所, 青葉区障害高齢課から各1名報告 ・評価研修部会企画会議委員: 3名 (つるがや地域生活支援センター, くれよん, サポートはぎ) ・事務局: 7名 (障害者総合支援センター, 精神保健福祉総合センター, 北部・南部発達相談支援センター)
獲得目標	<p><個別支援></p> <ul style="list-style-type: none"> ①生活全般にわたるアセスメントを丁寧に行い, 利用者主体で本人の希望や楽しみ, ストレングス等をくみ, 支援に反映することができる ②支援希求が弱い方や重度障害児者等の意思形成及び表明の支援(意思決定支援)を適切に行い, ニーズを把握することができる ③チームアプローチを実践できる <p><地域支援></p> <ul style="list-style-type: none"> ①個別支援で把握したニーズを地域の課題として考えることができる ②生活者レベルで各地域の特徴を把握し, 社会資源の変遷に応じて支援ネットワークを形成できる ③既存の社会資源の活用に加え, それだけでは満たせないニーズに対して社会資源開発に取り組むことができる <p><人材育成></p> <ul style="list-style-type: none"> ①対人援助職としての価値観を自覚し, 振り返ることができる ②組織内外において, 事例検討会やケースレビュー等の運営をするためのスキルを学ぶことができる ③チームアプローチを実践できる
内 容	<p>【テーマ】個別支援と地域支援のつながりと醍醐味</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講話「個別支援と地域支援のつながり」 ・講師: 東北福祉大学 総合マネジメント学部 産業福祉マネジメント学科 教授 高橋 誠一 氏 ・実践報告「地域における相談支援ネットワークの実践」 ・報告者: 青葉区障害高齢課, ひなたぼっこ, ほっとすぺーす, 仙台市社会福祉協議会 青葉区事務所 ・グループワーク: 以下のテーマでグループワーク(1G5~6名) <ul style="list-style-type: none"> ①「自己紹介・研修参加目的, 地域づくりの課題と感じていること」 ②「講話と実践報告を聞いて感じたこと」 ③「これから取り組んでいこうと思うこと」

<p>研修実施における工夫点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・グループワークにおいて、地域の社会資源の情報交換を促進し、連携のアイデアを共有するために、区、事業所等の種別（委託・指定特定・行政）がバランスよく混じり合うようにグループメンバーを調整した。 ・「個別支援と地域支援のつながり」を切り口とし、地域とつながりを作っていくために必要なスキルを意識できるような構成にした。 ・講話と実践報告を通して地域に入っていく上での「地域への入り方の工夫」等や地域支援と個別支援の相互性等について参加者が理解を深めることができた。 ・本研修内容が、各区障害者自立支援協議会における地域づくり、既存の地域資源の活用等へとつながっていくよう、今後も各区障害者自立支援協議会と連携を図っていく。
<p>次年度に向けて</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今回の実践研修において、研修手帳の持参率が低かった。研修の案内に研修手帳に関する案内を記載しなかったことも一因と思われるため、次年度以降は研修案内に研修手帳に関する案内を記載する。 ・評価・研修部会企画会議の委員の方にファシリテーターとして参加していただいたことで、円滑かつ適切なグループワークの進行ができた。より一層、研修を充実できるよう、引き続き企画会議で検討していきたい。一方で委員の方には負担感もあると思われるため、研修の運営方法等については引き続き企画会議で検討していきたい。 ・令和5年度はテーマを「地域支援」に絞って研修を企画した。参加者アンケートからは「他分野（高齢分野）との協働事例について学びたい」「地域支援の視点を大切にしたい事例について学びたい」という意見が多かった。そのような意見等も踏まえて次年度以降も企画会議等でご意見をいただきながら「地域支援」についての研修を企画していきたい。「人材育成」に関する研修についても相談支援従事者研修や各区自立支援協議会等、他の研修等と内容が重複しないよう、企画会議等でご意見をいただきながら、開催の有無も含めて検討していきたい。